

# 2019年度 第2四半期 決算説明資料

株式会社 神戸製鋼所

2019年11月6日

## 1.連結業績概要

## 2.セグメント別 売上高・経常損益

## 参考情報

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 2019年度第2四半期累計期間（上期）

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①	19年度 前回公表（8/2）	
				上期③	増減②-③
売上高	9,582	<b>9,444</b>	△137	9,800	△356
営業損益	231	<b>74</b>	△156	0	+74
経常損益	93	<b>14</b>	△78	△100	+114
特別損益	※1,2 363	※3,4 △ <b>41</b>	△405	—	△41
親会社株主に帰属 する四半期純損益	333	△ <b>62</b>	△396	0	△62

※1 子会社化関連損益 48億円（神鋼鋼線工業の子会社化）

※2 投資有価証券売却益 314億円（神鋼不動産株式の75%を売却）

※3 投資有価証券売却益 67億円（政策保有株式の売却）

※4 投資有価証券評価損 △108億円

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し ③	年度見通し ④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	19,718	9,444	10,256	<b>19,700</b>	+812	△18	20,000	△300
営業損益	482	74	76	<b>150</b>	+2	△332	250	△100
経常損益	346	14	△14	<b>0</b>	△28	△346	100	△100
特別損益	143	※1,2 △41	-	△41	+41	△184	-	△41
親会社株主に帰属 する当期純損益	359	△62	12	△50	+74	△409	100	△150

※1 投資有価証券売却益 67億円  
(政策保有株式の売却)

※2 投資有価証券評価損 △108億円

&lt;為替レート&gt;

	18年度 上期	18年度	19年度 上期	19年度 下期見通し
USDドル (円/\$)	110	111	109	110
中国元 (円/元)	16.7	16.5	15.7	15.0
ユーロ (円/€)	130	128	121	120

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。
- これに基づき、当期の中間配当につきましては、8月2日に公表の通り、誠に遺憾ながら見送る方針を決議しております。なお、期末配当につきましては、予想額を未定としております。

### ＜配当実績＞

	16年度			17年度			18年度			19年度(予想)		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	-	-	-	-	30	30	10	10	20	-	未定	未定

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。

## 2019年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

（億円）

		18年度			19年度	前年同期比 ②-①	19年度 前回公表（8/2）	
		上期①	下期	年度	上期②		上期③	増減②-③
鉄鋼	売上高	3,595	3,944	7,539	3,652	+57	3,700	△48
	経常損益	△17	64	47	△58	△41	△60	+2
	(内 在庫評価影響)	(5)	(30)	(35)	(-)	(△5)	(35)	(△35)
溶接	売上高	398	441	839	431	+33	420	+11
	経常損益	9	26	36	18	+9	20	△2
アルミ・銅	売上高	1,813	1,777	3,590	1,702	△110	1,750	△48
	経常損益	16	△32	△15	△83	△100	△80	△3
	(内 在庫評価影響)	(20)	(-)	(20)	(△15)	(△35)	(△20)	(+5)
機械	売上高	842	872	1,714	804	△38	810	△6
	経常損益	8	3	12	23	+14	0	+23
エンジニアリング	売上高	554	963	1,517	614	+60	660	△46
	経常損益	10	54	65	21	+11	△5	+26
建設機械	売上高	2,049	1,811	3,860	1,978	△71	2,100	△122
	経常損益	135	120	255	87	△47	80	+7
電力	売上高	358	402	761	354	△4	350	+4
	経常損益	△36	33	△3	16	+52	△5	+21
その他	売上高	222	198	420	138	△84	140	△2
	経常損益	8	14	23	0	△8	0	-
調整額	売上高	△252	△273	△525	△231	+20	△130	△101
	経常損益	△42	△32	△75	△11	+30	△50	+39
合計	売上高	9,582	10,136	19,718	9,444	△137	9,800	△356
	経常損益	93	252	346	14	△78	△100	+114

## 2019年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

## 鉄鋼

- 鋼材の販売数量は、国内の自動車向けの需要が堅調に推移したものの、海外の自動車向けを中心に需要が減少したことから、前年同期並みとなった。
- 鋼材の販売価格は、主原料価格上昇を反映し、前年同期を上回った。
- 生産コストの改善を進めたものの、海外の自動車向けの需要減に伴う鋼材の製品構成の悪化などから、経常損益については、前年同期に比べ悪化した。

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	3,595	3,652	+57
経常損益	△17	△58	△41
(内 在庫評価影響)	(5)	(-)	(△5)

## &lt;生産・販売状況&gt;

粗鋼生産量	339万t	339万t	+0万t
鋼材販売量	271万t	273万t	+2万t
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.7%	25.4%	△0.3%
鋼材販売単価(千円/t)	85.2	86.7	+1.5

## &lt;差異分析&gt;

○18年度上期 △17億円 → 19年度上期 △58億円 △41億円

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+40	原料価格	△120
総コスト削減	+75	在庫評価影響※	△5
連結子会社・持分法	+10	為替影響	△10
		その他	△31
合計	+125	合計	△166

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

## 2019年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

## 溶接

- 溶接材料の販売数量は、タイやインドネシアなどで需要が低迷したものの、韓国を中心とした造船向けの需要が下げ止まったことや、中国におけるエネルギー向け需要の増加などから、前年同期を上回った。
- 経常損益については、販売数量の増加などにより増益となった。

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	398	431	+33
経常損益	9	18	+9

## アルミ・銅

- アルミ圧延品の販売数量は、半導体・IT関連の需要が減少したことなどから、前年同期を下回った。
- 銅圧延品の販売数量は、半導体や自動車用端子向けの需要が減少したことなどから、前年同期を下回った。
- 経常損益については、販売数量の減少やエネルギーコストの悪化、米国のサスペンション製造子会社における設備トラブルの影響、在庫評価影響の悪化などにより、損失となった。

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	1,813	1,702	△110
経常損益	16	△83	△100
(内 在庫評価影響)	(20)	(△15)	(△35)

## &lt;販売状況&gt;

アルミ圧延品販売量	175千t	169千t	△ 6千t
銅板条販売量	29千t	26千t	△ 3千t
銅管販売量	43千t	44千t	+0千t



## 2019年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

## 機械

- 売上高は、石油化学向けの圧縮機を中心に大型案件の売上を計上した前年同期に比べ、減収となった。
- 経常損益は、案件の採算性の改善やアフターサービス需要が増加したことなどから、増益となった。

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	842	804	△38
経常損益	8	23	+14

## &lt;受注高&gt;

(億円)

	18年度			19年度	増減 ②-①
	上期①	下期	年度	上期②	
国内	319	292	612	276	△43
海外	405	699	1,104	528	+122
合計	725	991	1,717	805	+79

## &lt;受注残高&gt;

(億円)

	18年度		19年度	増減 ②-①
	上期末	下期末①	上期末②	
国内	454	432	408	△24
海外	834	1,133	1,182	+48
合計	1,289	1,566	1,590	+24

# 2019年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

## エンジニアリング

- 新鉄源プラントや廃棄物処理案件など既受注案件の進捗差などから、増収増益となった。

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	554	614	+60
経常損益	10	21	+11

<受注高> (億円)

	18年度			19年度	増減 ②-①
	上期①	下期	年度	上期②	
国内	519	385	905	685	+165
海外	202	118	321	76	△125
合計	722	504	1,226	761	+39

<受注残高> (億円)

	18年度		19年度	増減 ②-①
	上期末	下期末①	上期末②	
国内	1,164	1,042	1,344	+301
海外	848	651	470	△181
合計	2,012	1,693	1,814	+120

参考) 受注高+長期運転維持管理業務(※)の受託高 (億円)

	18年度			19年度	増減 ②-①
	上期①	下期	年度	上期②	
受注/受託	651	840	1,491	696	+45

参考) 受注残高+長期運転維持管理業務(※)の受託残高 (億円)

	18年度		19年度	増減 ②-①
	上期末	下期末①	上期末②	
受注/受託	2,881	2,973	3,029	+56

※神鋼環境ソリューションの水処理/ごみ処理等に関する長期運転維持管理業務の受託案件

## 2019年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

### 建設機械

- 油圧ショベルの販売台数は、国内については、需要が堅調であったことから前年同期を上回った。一方、海外については、中国において需要は堅調であったものの東南アジアにおいて需要が一時的に減退したことなどから、前年同期を下回った。
- クローラークレーンの販売台数は、主に東南アジアにおいて海外メーカーとの競合が激化したことから、前年同期を下回った。
- 売上高については、中国における油圧ショベルの販売機種構成の変化や、東南アジアにおける油圧ショベルの販売台数が減少した影響などから、減収となった。
- 経常損益については、売上高の減少に加えて、開発費などの固定費が増加したことなどから、減益となった。

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	2,049	1,978	△71
経常損益	135	87	△47

### 電力

- 売上高については、販売電力量は、設備の点検や補修の日数差などにより前年同期を上回ったが、石炭価格の下落に伴い、電力の販売単価が前年同期を下回ったことなどから、前年同期並となった。
- 経常損益については、神戸の新規発電プロジェクトの資金調達に伴う一過性の費用が発生した前年同期に比べ増益となった。

(億円)

	18年度 上期①	19年度 上期②	前年同期比 ②-①
売上高	358	354	△4
経常損益	△36	16	+52

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

(億円)

		18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
			上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
鉄鋼	売上高	7,539	3,652	3,948	7,600	+296	+61	7,900	△300
	経常損益	47	△58	8	△50	+66	△97	0	△50
	(内 在庫評価影響)	(35)	(-)	(45)	(45)	(+45)	(+10)	(35)	(+10)
溶接	売上高	839	431	419	850	△12	+11	870	△20
	経常損益	36	18	12	30	△6	△6	40	△10
アルミ・銅	売上高	3,590	1,702	1,798	3,500	+96	△90	3,500	-
	経常損益	△15	△83	△127	△210	△44	△195	△120	△90
	(内 在庫評価影響)	(20)	(△15)	(△25)	(△40)	(△10)	(△60)	(△25)	(△15)
機械	売上高	1,714	804	936	1,740	+132	+26	1,730	+10
	経常損益	12	23	27	50	+4	+38	40	+10
エンジニアリング	売上高	1,517	614	866	1,480	+252	△37	1,510	△30
	経常損益	65	21	39	60	+18	△5	60	-
建設機械	売上高	3,860	1,978	1,922	3,900	△56	+40	3,950	△50
	経常損益	255	87	3	90	△84	△165	115	△25
電力	売上高	761	354	416	770	+62	+9	790	△20
	経常損益	△3	16	49	65	+33	+68	65	-
その他	売上高	420	138	192	330	+54	△90	350	△20
	経常損益	23	0	30	30	+30	+7	35	△5
調整額	売上高	△525	△231	△239	△470	△8	+55	△600	+130
	経常損益	△75	△11	△54	△65	△43	+10	△135	+70
合計	売上高	19,718	9,444	10,256	19,700	+812	△18	20,000	△300
	経常損益	346	14	△14	0	△28	△346	100	△100

# 2019年度業績見通し (セグメント別)

## 鉄鋼

- 生産コストの改善に努めるものの、海外の自動車向けや産業機械・建設機械向けなどの需要の減少の影響による販売数量の減少などから、前回想定に比べ減益を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	7,539	3,652	3,948	7,600	+296	+61	7,900	△300
経常損益	47	△58	8	△50	+66	△97	0	△50
(内 在庫評価影響)	(35)	(-)	(45)	(45)	(+45)	(+10)	(35)	(+10)

### <生産・販売状況>

粗鋼生産量	691万t	339万t	340万 t 程度	680万 t 程度	+1万t程度	△11万t程度	715万 t 程度	△35万t程度
鋼材販売量	562万t	273万t	280万 t 程度	555万 t 程度	+7万t程度	△ 7万t程度	585万 t 程度	△30万t程度
鋼材輸出比率 (金額ベース)	24.9%	25.4%	22%程度	24%程度	△3%程度	△1%程度	25%程度	△1%程度

### <差異分析>

○19年度前回見通し 0億円 → 19年度今回見通し △50億円 △50億円

(億円)

増 益 要 因		減 益 要 因	
原料価格	+45	生産・出荷	△ 120
総コスト削減	+15	為替影響	△ 5
在庫評価影響※	+10	その他	△ 5
連結子会社・持分法	+10		
合 計	+80	合 計	△ 130

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

# 2019年度業績見通し (セグメント別)

## 溶接

- 造船向けの需要の回復遅れや、東南アジアにおける需要の低迷の影響などから、前回想定に比べ減益を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	839	431	419	850	△12	+11	870	△20
経常損益	36	18	12	30	△6	△6	40	△10

## アルミ・銅

- アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材の需要が減少したことから、減少すると想定。
- 銅圧延品の販売数量は、需要回復時期のさらなる遅れが予想されることから、減少すると想定。
- 経常損益については、販売数量の減少、在庫評価影響の悪化に加え、米国サスペンション製造子会社のトラブル影響が長引くことや、銅管事業の売却損失を織込んだことなどから、前回想定に比べ悪化を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	3,590	1,702	1,798	3,500	+96	△90	3,500	-
経常損益	△15	△83	△127	△210	△44	△195	△120	△90
(内 在庫評価影響)	(20)	(△15)	(△25)	(△40)	(△10)	(△60)	(△25)	(△15)

### <販売状況>

アルミ圧延品販売量	344千t	169千t	170千 t 程度	340千 t 程度	+1千t程度	△ 4千t程度	350千 t 程度	△ 10千t程度
銅板条販売量	59千t	26千t	27千 t 程度	53千 t 程度	+1千t程度	△ 6千t程度	55千 t 程度	△ 2千t程度
銅管販売量	85千t	44千t	40千 t 程度	85千 t 程度	△ 4千t程度	同程度	85千 t 程度	同程度

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

## 機械

- 経常損益については、採算性の改善やアフターサービス需要が堅調に推移することなどから、前回想定に比べ増益を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	1,714	804	936	1,740	+132	+26	1,730	+10
<b>経常損益</b>	<b>12</b>	<b>23</b>	<b>27</b>	<b>50</b>	<b>+4</b>	<b>+38</b>	<b>40</b>	<b>+10</b>
受注高	1,717	805	800程度	1,600程度	△5程度	△120程度	1,600程度	同程度

## エンジニアリング

- 既受注案件が、順調に進捗すると見込まれることから、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	1,517	614	866	1,480	+252	△37	1,510	△30
<b>経常損益</b>	<b>65</b>	<b>21</b>	<b>39</b>	<b>60</b>	<b>+18</b>	<b>△5</b>	<b>60</b>	<b>-</b>
受注高	1,226	761	590程度	1,350程度	△170程度	+120程度	1,600程度	△250程度

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

## 建設機械

- 油圧ショベルの販売台数は、国内の需要は堅調に推移するものの、東南アジアの一部やインドにおいて需要の減少が見込まれることから、前回に比べ若干減少すると想定。
- クローラクレーンの販売台数は、需要環境に大きな変化は無く、前回並みと想定。
- 経常損益については、中国元に対して為替が円高傾向であり、中国事業の円換算での利益が縮小することや、開発費などの固定費を追加で織り込んだことなどから、前回想定に比べ減益を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	3,860	1,978	1,922	3,900	△56	+40	3,950	△50
経常損益	255	87	3	90	△84	△165	115	△25

## 電力

- 神戸発電所1・2号機では、安定操業の継続により、引き続き安定的な電力供給を行なう。
- 真岡発電所では、1号機が10月より営業運転を開始。
- 経常損益については、前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度 ①	19年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	19年度 前回公表 (8/2)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	761	354	416	770	+62	+9	790	△20
経常損益	△3	16	49	65	+33	+68	65	-



## 参考情報

## 【フリーキャッシュフローおよび設備投資の状況】

### ＜フリーキャッシュフロー＞

(億円)

	18年度 ①	19年度 見通し②	前年比 ②-①	19年度前回公表 (8/2)	
				年度③	増減②-③
営業キャッシュフロー	723	<b>100</b>	△ 623	350	△ 250
投資キャッシュフロー	△ 109	△ <b>1,400</b>	△ 1,291	△ 1,400	-
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	614	△ <b>1,300</b>	△ 1,914	△ 1,050	△ 250
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	385	△ <b>2,400</b>	△ 2,785	△ 2,200	△ 200
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	1,926	<b>700</b>	△ 1,226	700	-

### ＜設備投資の状況＞

(億円)

	18年度 ①	19年度 見通し②	前年比 ②-①	19年度前回公表 (8/2)	
				年度③	増減②-③
設備投資計上額	1,334	<b>2,800</b>	+1,466	3,000	△ 200
設備投資支払額	1,324	<b>2,750</b>	+1,426	2,900	△ 150
減価償却費	1,025	<b>1,050</b>	+25	1,100	△ 50

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 見通し
ROS ※1	3.8%	1.8%	0.0%
1株当たり当期純損益	174.43円	99.20円	△13.78円
有利子負債 ※2	7,260億円	7,242億円	7,350億円
D/Eレシオ ※3	0.98倍	※4 0.98倍	1倍程度
ROA ※5	3.1%	1.5%	0.0%
ROE ※6	8.9%	4.8%	△0.7%

※1：売上高経常利益率

※2：有利子負債は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※4：2019年度分借入金の前倒し調達（921億円）含む

前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

# ＜参考資料＞【鉄鋼】四半期別鋼材生産・販売（単体）

	18年度 実績						
							年度
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	
粗鋼生産量 (万t)	172	166	339	169	183	352	691
鋼材販売量 (万t)	139	132	271	149	143	291	562
鋼材販売単価 (千円/t)	83.5	87.0	85.2	87.4	86.4	86.9	86.1
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.9%	25.5%	25.7%	25.0%	23.1%	24.1%	24.9%

	19年度 見通し				
					年度
	1Q	2Q	上期	下期	
粗鋼生産量 (万t)	172	167	339	340程度	680程度
鋼材販売量 (万t)	136	136	273	280程度	555程度
鋼材販売単価 (千円/t)	87.3	86.1	86.7		
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.3%	25.5%	25.4%	22%程度	24%程度

○19年度上期 △58億円 → 19年度下期見通し 8億円 +66億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+120	原料価格	△ 20
在庫評価影響※	+45	総コスト	△ 20
為替影響	+5	連結子会社・持分法	△ 35
		その他	△ 29
合計	+170	合計	△ 104

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

○18年度 47億円 → 19年度見通し △50億円 △97億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+135	原料価格	△ 200
総コスト削減	+70	為替影響	△ 10
在庫評価影響※	+10	連結子会社・持分法	△ 25
		その他	△ 77
合計	+215	合計	△ 312

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。